

【白河市】

令和8年度全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果及び考察について

市民の皆様へ

白河市教育委員会

令和8年4月23日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の調査結果及び考察についてお知らせします。

この調査は、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

調査対象は小学6年生と中学3年生で、「教科に関する調査」と学習意欲や学習環境などを調査する「質問紙調査」を実施しました。教科に関する調査では、小学校は国語、算数の2教科を実施しました。また、中学校は国語、数学、英語の3教科を実施しました。

教育委員会では、市内小中学校の調査結果と考察を公表することにより、学校、保護者、地域と一体となって学力向上や学習環境の改善に取り組んでいきますので、ご理解とご協力をお願いします。

〈小学6年生の平均正答率〉 (単位%)

	国語	算数
白 河 市	6 5	5 7
福 島 県	5 9	5 4
全 国	6 0 . 9	5 6 . 4

【考察】

「国語」

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題が高い正答率でした。これは、漢字の知識や、文や文章を書くときに漢字を正しく使う習慣が身に付くように、普段の授業や家庭学習において、継続的な指導を行った成果であると考えます。
- 「読むこと」の領域では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題については、高い正答率でしたが、「書くこと」の領域では、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られました。相手に分かりやすく伝わるように、伝えたいことや知らせたいことを明確にし、つながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えることができるように指導していきます。

「算数」

- 「数と計算」の領域では、異分母の分数の大小を判断し、その理由を記述する問題が高い正答率でした。また、「データの活用」の領域では、集計の誤りを見付け、根拠を記述する問題が高い正答率でした。分数の意味や表し方、表やグラフなどの資料にあるデータを分類整理する力が身につけていると考えられます。
- 「図形」の領域では、立体の体積を計算で求める方法は理解できていますが、体積の意味の理解については課題がみられました。物体の体積は単位体積を基準とすることや、立体の空間的な見方について理解を深められるよう指導していきます。また、「変化と関係」の領域では、基準量、比較量、割合の関係の理解に課題が見られました。数量関係を比べるときには割合を用いることや、基準量と割合から比較量を求めることができることを、図や絵などを用いて理解できるよう授業を工夫していきます。

〈中学3年生の平均正答率〉 (単位%) ※中学校英語のみ IRT スコア (標準点500点)

	国語	数学	英語
白 河 市	6 4	5 3	4 6 2
福 島 県	6 2	5 3	4 7 2
全 国	6 3 . 9	5 7	4 9 9

【考察】

「国語」

- 「話すこと・聞くこと」の領域では、互いに立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる問題が全国と比較して高い正答率でした。これは普段の授業で、それぞれの置かれた立場や意見が出された背景について理解しながら話したり聞いたりするよう指導を行った成果であると考えます。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかを見る問題に課題がありました。辞書を活用して語句の意味や使い方に対する認識を深めるとともに、語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを捉えられるよう指導していきます。

「数学」

- 「関数」の領域では、反比例の表から二つの数量の変化や対応の特徴を捉える問題が全国と比べて高い正答率でした。比例や反比例の関係について考える学習において、数学的な用語の意味を理解させるとともに、積極的に練習問題に取り組んだ成果だと考えます。
- 「図形」の領域では、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することや、筋道を立てて考え証明することに課題が見られました。図形の基本的な性質についてはその都度繰り返し復習をし、筋道を立てて考え証明することについては、「分かっていること」「必要な条件は何か」を順序立てて考えるよう指導を工夫していきます。

「英語」

- 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりすることや短い文章を読み概要を捉えることは、比較的高い正答率であり、無答率も低い結果となっています。
- 自分の考えや気持ちなどを整理して文章を書くことに課題が見られました。書く活動を繰り返し、英語の文の基礎・基本の定着を図るとともに、見直しや教科書にある表現を確認することで、正確に書く力を高められるよう指導していきます。また、英文を書く前に、メモをとるなど、自分の考えや気持ちを整理したり、文と文のつながりに注意したりしながら文章を書くよう指導していきます。

令和8年度全国学力・学習状況調査

質問紙調査結果及び考察について

市民の皆様へ

白河市教育委員会

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について、質問紙による調査も実施しましたので、その結果及び考察の一部をお知らせします。

お知らせする結果は、児童生徒の家庭学習の取組や授業の様子に関する調査結果であり、それを公表することで、学校と家庭と地域との連携を図っていきたいと考えております。

この結果をもとに、教育委員会は、改善に向けた取組を学校とともに行っていきますが、考察では、保護者や地域の方々をお願いしたい内容もありますので、ご協力をよろしくお願いします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

(単位%)

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
小 6	白 河 市	30.4	52.7	13.7	1.9
	福 島 県	28.6	52.7	15.9	2.1
	全 国	28.7	50.7	17.1	2.7
中 3	白 河 市	26.4	53.7	18.6	0.9
	福 島 県	27.3	52.3	18.0	2.0
	全 国	27.4	50.8	18.6	2.7

【考察】

- 「できている」「どちらかといえばできている」と回答している児童生徒の割合が、小学校では約83%、中学校では約80%で全国の割合を上回りました。これは、図書やタブレット端末によって自ら必要な情報を得ることができる環境が整っていることや、授業の中で、それらのものを活用したり子どもたちが互いの考えや意見に触れて考える機会を設定したりしている成果であると考えます。
- 子ども達が学習の見通しを持ち自ら学ぶことができる授業や、互いに練り上げ新たな考えに気付いたり自分の考えを確かめたりすることができる授業を通して、主体的に学習に取り組む態度を育てていきます。

2 授業以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

(単位%)

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
小 6	白 河 市	5. 8	9. 5	3 5. 5	3 1. 8	1 4. 2	3. 0
	福 島 県	4. 9	1 1. 2	3 9. 9	3 0. 0	9. 9	3. 3
	全 国	1 0. 5	1 1. 1	2 8. 3	2 9. 1	1 4. 5	5. 7
中 3	白 河 市	3. 0	1 8. 4	4 4. 8	2 4. 2	6. 7	2. 8
	福 島 県	5. 2	2 0. 0	4 0. 0	2 2. 3	8. 6	3. 6
	全 国	8. 9	2 1. 2	3 1. 5	1 9. 5	1 1. 5	6. 9

【考察】

- 2時間以上勉強している児童生徒の割合は低いものの、1時間以上勉強している児童生徒の割合は、小学校では約50%、中学校では約66%で全国の割合を上回りました。家庭での学習習慣は、一定程度は身につけていると考えられます。
- 小学校では約17%、中学校では約10%の児童生徒が「30分未満」、または「全くしない」と回答しています。学習の目的や必要性を丁寧に説明し、具体的な学習方法について個別に指導するとともに、放課後に取り組むことの優先順位や時間の使い方を自分で調整できる、自己マネジメント力を育成していきます。

3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

(単位%)

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小 6	白 河 市	3 7. 1	5 0. 1	1 0. 2	2. 3
	福 島 県	3 3. 5	4 7. 9	1 5. 1	2. 3
	全 国	3 1. 4	4 7. 0	1 7. 2	3. 4
中 3	白 河 市	3 1. 2	5 0. 2	1 5. 8	2. 6
	福 島 県	3 0. 5	5 0. 4	1 6. 3	2. 3
	全 国	2 9. 3	4 9. 7	1 7. 2	3. 2

【考察】

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童生徒の割合が、小学校では約87%、中学校では約81%で全国の割合を上回りました。普段の授業において、学習内容を振り返る時間を確保していることが、分かったことや分からなかったことを自覚させ、次の学習につながっていると考えられます。
- 今後も、授業のまとめにおいて「何が分かったのか」「何ができるようになったのか」を自分の言葉で表現できるよう振り返りの時間を確保していきます。学ぶ目的や学び方を理解し、児童生徒自身が自立して学び続けることができる力を育んでいきます。